

令和 6 年度

東京都教職員研修センター紀要

第 24 号

令和 7 年 3 月

はじめに

現在、子供たちが育つ環境にはデジタル化の進展など大きな変化が生じています。これからの予測困難な時代において、社会の変化に柔軟に対応しながら、「人」を育む教育の在り方を追求し、子供たちの学びを支えていくことが必要です。

東京都教育委員会は令和6年3月に策定した「東京都教育ビジョン（第5次）」において「自ら未来を切り拓く力の育成」「誰一人取り残さないきめ細かな教育の充実」「子供たちの学びを支える教職員・学校の力の強化」の3本の柱を掲げ、東京の目指す「誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って自ら伸び、育つ教育」の実現を図るために、様々な施策を推進しています。

このビジョンの施策展開の方向性の一つに、子供が自ら学び方を選択し、自立した学習者になることを目指した授業づくりについて研究を進めることなど、デジタルを活用した「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進」が示されています。また、不登校の子供一人ひとりの状況に応じた支援を実現するため、チャレンジクラス（不登校対応校内分教室）を設置することなど、「様々な困難を抱える児童・生徒への支援の充実」を掲げており、このことは、東京都「こども未来アクション2025」における施策強化の方向「多様な学び・居場所の創出を推進し、子供が自分らしく学び生活できる環境を整備」としても示されています。そして、これらの取組を推進するために、実践的指導力、高い専門性等を身に付ける研修の実施を目指した「教員一人ひとりのキャリアに応じた資質・能力の向上」を施策展開の方向として掲げています。

こうしたことを踏まえ、東京都教職員研修センターでは令和6年度に、以下の研究に取り組みました。

第1は、「子供が自ら伸び育つ力を育むデジタルを活用した授業デザインに関する研究（2年次）」です。教育庁総務部デジタル推進課が示した「デジタルを活用したこれからの学び」に関して、当研修センターによる伴走型の支援を取り入れ、学校と協力しながら実践事例を開発し、児童・生徒の変容を数値としてまとめました。

第2は、『令和の日本型学校教育』を担う新たな教師の学びの姿に関する研究（2年次）－『校内研修ガイドブック』の活用を通して－です。校内研修における「新たな教師の学びの姿」を明らかにするとともに、当研修センターが昨年度開発した「校内研修ガイドブック」について、実践を追加することで改訂しました。

第3は、「不登校児童・生徒への支援に関する研究（1年次）」です。我が国における「不登校」に関する変遷をまとめるとともに、東京都立チャレンジスクールの生徒を対象に調査を行い、不登校が生じにくい「魅力ある学校づくり」に関する仮説を生成しました。

各教育委員会及び学校におかれましては、今後の学習活動等の改善・充実に向けて、本紀要に掲載した研究の成果及び調査の結果を広く活用していただければ幸いです。

結びに、関係教育委員会をはじめ、検証授業及び調査等に御協力いただいた学校の先生方、多くの御示唆や御助言をいただいた講師の方々に御礼を申し上げます。

令和7年3月

東京都教職員研修センター所長 小寺 康裕

目 次

- 1 子供が自ら伸び育つ力を育むデジタルを活用した授業デザインに関する研究（2年次）
..... 3

- 2 「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿に関する研究（2年次）
ー「校内研修ガイドブック」の活用を通してー
..... 24

- 3 不登校児童・生徒への支援に関する研究（1年次）
..... 45

- 参考文献・資料等
研究に携わった所員・講師・教員研究生・研究協力校..... 65